

令和3年度 県立学校プロジェクト学習推進事業
実施報告書【課題実践校用】

学校番号	41
学校名	富山県立石動高等学校

学校の現状と課題	普通科と商業科の教育力を生かし、地域社会を担い変化の激しい社会で活躍できる人材育成を目指している。広域から通学する生徒たちに、本校の立地する地域の豊かな自然と歴史的な特色への理解を深めさせ、課題を持って主体的・積極的に物事に取り組む態度を育成することが課題である。また、新学習指導要領に対応したカリキュラムを実施するために、ICTを活用して教員の資質向上を図る必要がある。	
テーマ(特色)	新学習指導要領に対応したカリキュラム・マネジメントとICTを用いた教科指導力の向上 探究活動におけるICTを利用した生徒のコミュニケーション力・表現力の向上	
設定した「テーマ」の達成状況	①新学習指導要領に対応したカリキュラム・マネジメントとICTを用いた教科指導力の向上 Google Classroomの利用方法や、オンライン授業を実施するための研修会を行った。9月の生徒の自宅待機期間中には、ほとんどの教員がオンライン授業を実施した。その後も、タブレットを利用した授業を継続し、教科の指導に利用している。 ②地域と連携した探究活動の推進と広報活動 1年生の総合的な探究の時間に、富山大学大学院の先生方の協力を得て探究活動の意義と進め方について、また、情報の収集・分析・考察の仕方について学び、グループ別で小矢部市の課題について意見を出し合った。 3年商業科は課題研究において、地域と連携して地域の特産品をアピールする方法などについて研究した。	
実施内容(具体的に記入する)	①新学習指導要領に対応したカリキュラム・マネジメントとICTを用いた教科指導力の向上 タブレット端末を用いて、Google Classroomを利用し、課題の提出方法やその回収、小テストの方法とその評価、アンケートの実施方法とその回収やまとめ、オンライン授業を実施するための研修会を行った。9月の自宅待機期間中にはほとんどの教員がオンライン授業を実施した。その後も、タブレットを利用した授業を継続するため、教科毎に教材研究を進め指導に利用している。また、毎日の健康観察やクラス毎の連絡、新型コロナウイルスによる出席停止などで自宅待機している生徒には個別に教科科目とのやりとりを行っている。 ②地域と連携した探究活動の推進と広報活動 1年生の総合的な探究の時間に、富山大学大学院の先生方の協力を得て探究活動の意義と進め方について学んだ。 また、情報の収集・分析・考察の仕方についても学習し、グループ別に小矢部市の課題について意見を出し合った。 3年商業科では、課題研究において、JAいなばと連携して地元特産品のはとむぎを活用したおつまみを考案した。市の農業祭でも試食会を開くほか、次年度以降も市内の農産物加工施設とタイアップした新たな商品開発を行う予定である。	
取組による成果(プロジェクト学習推進の観点から)	①新学習指導要領に対応したカリキュラム・マネジメントとICTを用いた教科指導力の向上 各教科・科目の学習において各生徒が主体的に学ぶことができるよう各教員が教材研究を進めた。その際に、タブレットを用いてGoogle Classroomを利用し、オンライン授業や対面授業、課題提出と回収などを実施した。タブレットに教師が提示する教材を通じて、生徒同士が意見を交換し学びを深めていく場面が多くなった。教員同士も教材作成にあたり互いに意見交換する場面が見られた。 アンケートの実施においては、結果の集計に多くの時間を費やしていたが、Google Classroomのフォームを利用することで、教員だけでなく生徒が総合的な探究などでの利用にも大いに役立った。 ②地域と連携した探究活動の推進と広報活動 1学年の総合的な探究の時間において、小矢部市の課題について考え、その解決方法をグループ毎に話し合った。グループ毎の考えをまとめ、解決策について表現する手法や目的を大学教員から学ぶことによって活動が活発に行われた。 3学年商業科の課題研究では、グループで設定した課題に対し、チーム全体で協働して意見を出し合い、課題に対する解決策を提案した。地元の特産品を商品化するための取組ではJAいなばの協力を得るなど、学校外との連携を進めて活動したグループもあった。	
対象者(学年・人数など)	全学年510名 教員40名	
実施実績	4月	
	5月	地域と連携した総合的な探究の時間、課題研究
	6月	
	7月	教員用講習会
	8月	
	9月	教員用講習会 ICTを用いた授業運営
	10月	教員用講習会 研究授業
	11月	教員用講習会
	12月	教員用講習会
	1月	大学教授による総合の講習会
	2月	
	3月	